

『語音翻譯』札記(下)

竹越 孝

(承前)

9. 語彙篇の語彙と文法

会話篇(第1~30条)の場合と同様に、語彙篇(第31~169条)の所収語彙と『老乞大』・『朴通事』の現存諸本における有無を対照した表を掲げる。『語音翻譯』と一部が合致する、もしくはそれに近似した語彙や表現が存在する場合は番号に a を付した別の項目を立てて有無を記す。また、○としたものでも単語の一部に含まれる場合や完全な一致とは言えない場合(字体の差異も含む)には下に原文を注記する。なお、*印を附したものは大塚(1990)の中で言及されている項目であることを表す:

No.	語音翻譯	旧老	翻老	老新	重老	朴諺	朴新
31	天	○	○	○	○	○	○
32	天陰了	×	×	×	×	×	×
33	天晴了	×	×	×	×	×	×
34	下雨	×	×	×	×	○	○
35	雨晴了	×	×	×	×	○	○
36	下雪	×	×	×	×	×	×
37	雪住了	×	×	×	×	×	×
37a	住了	×	×	×	×	○	×
38	日頭*	○	○	○	○	○	×
39	日頭上了*	×	×	×	×	×	×
40	日頭落了*	×	○	○	○	×	×
41	風	○	○	○	○	○	○
42	天亮了	×	○	○	○	×	×
43	清早	○	○	○	○	×	○
44	晌午	○	○	○	○	○	○
45	晚夕	○	○	×	×	×	×
46	黑夜	○	○	○	○	○	○
47	白日	×	×	×	×	○	○
48	暖和	×	×	×	×	×	×

49	天熱	×	×	×	×	×	×
50	涼快	×	○	○	○	×	○
51	向火	×	×	×	×	×	○
52	春	○	○	○	○	○	○
53	夏	○	○	○	○	○	○
54	秋	○	○	○	○	○	○
55	冬	○	○	○	○	○	○
56	今日	○	○	○	○	○	○
57	昨日	○	○	○	○	○	○
58	明日	○	○	○	○	○	○
59	後日	×	×	×	×	○	○
60	這月	○	○	×	×	○	○
61	來月	×	×	×	×	×	×
62	開年	×	×	×	×	×	×
63	拜年	×	×	×	×	×	×
63a	拜節	×	×	×	×	○	○
64	地	○	○	○	○	○	○
65	地平正*	×	×	×	×	×	×
65a	平正	×	×	×	×	○	○
66	山頂	×	×	×	×	○	○
67	山底	×	×	×	×	×	×
68	大路	×	×	×	×	×	×
69	小路	×	×	×	×	×	×
70	酒	○	○	○	○	○	○
71	白酒	×	×	×	×	×	×
72	清酒	×	×	×	×	○	×
73	飲酒	×	×	×	×	○	○
74	酒有*	×	×	×	×	×	×
75	酒無了*	×	×	×	×	×	×
75a	無了	○	×	×	×	×	×
76	酒醉了	○	○	○	○	○	○
77	飯	○	○	○	○	○	○
78	喫飯	○	○	○	○	○	○
79	做飯*	○	○	○	○	○	○
80	大米飯	×	×	×	×	×	×

81	小米飯	×	×	×	×	×	×
81a	小米	○	○	○	○	×	×
82	做下飯*	×	×	×	×	×	×
82a	下飯	○	○	○	○	×	○
83	{白市}米*	×	×	×	×	×	×
83a	{白市}	×	×	×	×	○	×
84	肉	○	○	○	○	○	○
85	魚	○	○	○	○	○	○
86	鹿肉	×	×	×	×	×	×
87	猪肉	○	○	○	○	○	○
88	兔肉	×	×	×	×	×	×
89	油	○	○	○	○	○	○
90	塩	○	○	○	○	○	○
91	醬	○	○	○	○	○	○
92	醋	×	×	×	×	○	○
93	芥末	×	×	×	×	○	×
94	胡椒	×	×	×	×	×	×
95	川椒*	×	×	×	×	×	×
96	生薑	○	○	○	○	○	○
97	葱	○	○	○	○	○	○
98	蒜	○	○	○	×	○	○
99	菜蔬	○	○	○	○	○	×
100	燒茶	×	×	×	×	×	×
101	甜	○	○	○	○	○	○
102	苦	×	×	×	×	○	○
103	酸	×	×	○	○	○	○
104	淡	○	○	○	○	×	×
105	鹹	○	○	○	○	×	×
106	辣	×	×	×	×	×	○
107	硯	○	○	○	○	○	○
108	墨	×	×	×	×	○	○
109	筆	×	×	×	×	○	○
110	弓	○	○	○	○	○	○
111	箭	○	○	○	○	○	○
112	弓袋	○	×	×	×	○	○

113	箭袋	×	×	×	×	○	○
114	弓弦	○	○	○	○	×	×
115	窓*	×	×	×	×	○	○
116	門	○	○	○	○	○	○
117	掛帳	×	×	×	×	×	×
118	帳	○	○	○	○	○	○
119	席子*	○	○	○	○	○	○
120	靴	○	○	○	○	○	○
121	紙	○	○	○	○	○	○
122	匙	○	○	○	○	○	○
123	筯*	○	○	×	×	○	○
124	椀子*	×	×	×	×	×	×
124a	椀子	○	○	×	×	×	×
125	篩	×	×	×	×	○	○
126	砂貼是*	×	×	×	×	×	×
126a	磁櫟子	○	○	○	○	×	×
127	木貼是*	×	×	×	×	×	×
127a	木櫟子	○	○	○	○	×	×
128	櫛子*	×	×	×	×	○	○
129	刀子*	○	○	○	○	○	○
130	鍋兒*	○	○	×	×	○	○
131	箒	○	○	○	○	○	○
132	火盆	×	×	○	○	○	○
133	衣服	○	○	○	○	○	○
134	袴兒*	○	○	×	×	○	×
135	裙兒*	×	×	×	×	×	×
136	瓦	×	×	×	×	○	○
137	車子*	○	○	○	○	○	○
138	卓子*	×	×	○	○	○	○
139	炭	×	×	×	×	×	○
140	柱	○	○	○	○	○	○
141	身子*	×	○	○	○	○	○
142	面	○	○	○	○	○	○
143	眼*	○	○	○	○	○	○
144	鼻*	○	○	○	○	○	○

145	口	○	○	○	○	○	○
146	耳*	○	○	×	×	○	○
147	頭	○	○	○	○	○	○
148	手	○	○	○	○	○	○
149	足	×	×	×	×	○	○
150	舌頭	×	×	×	×	×	×
150a	舌尖	×	×	×	×	○	○
151	手指頭	×	×	×	×	×	×
151a	指頭	×	×	×	×	○	○
152	頭髮	×	×	×	×	○	○
153	牙齒	×	○	×	×	×	×
154	花	○	○	○	○	○	○
155	綠	○	○	○	○	○	○
156	黑	○	○	○	○	○	○
157	青	○	○	○	○	○	○
158	牛	○	○	○	○	○	○
159	馬	○	○	○	○	○	○
160	豬	○	○	○	○	○	○
161	鷄*	○	○	○	○	○	○
162	狗	○	○	○	○	○	○
163	羊	○	○	○	○	○	○
164	老鼠	×	×	×	×	○	○
165	蛇	×	×	×	×	○	○
166	龍	×	×	×	×	○	○
167	象	×	×	×	×	○	○
168	獅	×	×	×	×	○	○
169	虎	×	×	×	×	○	○

<表注>

- (35) 『朴諺』：雨晴了也。『朴新』：雨纔晴了。
(37a) 『朴諺』：雨住了麼。
(43) 『旧老』、『翻老』：清早晨。
(44) 『旧老』、『翻老』、『老新』、『重老』、『朴諺』、『朴新』：{日尚} 午。
(72) 『朴諺』：竹葉清酒。
(75) 『旧老』：無了字兒。

- (76) 『旧老』、『翻老』、『老新』、『重老』、『朴諺』、『朴新』：酒也醉了。
- (82a) 『老新』、『重老』：下飯菜。
- (90) 『旧老』：鹽。
- (96) 『旧老』、『翻老』、『老新』：生薑湯。
- (97) 『旧老』、『翻老』、『老新』、『重老』：生葱。
- (101) 『旧老』、『翻老』：甜瓜。『老新』、『重老』：甜梨。
- (102) 『朴諺』：苦酒。『朴新』：苦〔艸/𣎵〕豆酒。
- (103) 『老新』、『重老』：酸梨。
- (105) 『旧老』、『老新』、『重老』：鹹。
- (112) 『旧老』：弓袋。
- (115) 『朴諺』：窓兒。『朴新』：窓戶。
- (118) 『旧老』、『翻老』：帳子。『老新』、『重老』：帳房。『朴諺』、『朴新』：蚊帳、帳房。
- (123) 『旧老』、『翻老』：筋子、銅筋。
- (125) 『朴諺』、『朴新』：篩子。
- (126a) 『翻老』：蓋樸子。
- (131) 『旧老』、『翻老』、『老新』、『重老』、『朴諺』、『朴新』：苕箒。
- (140) 『旧老』、『翻老』、『老新』、『重老』：橋柱。
- (144) 『旧老』、『翻老』、『老新』、『重老』、『朴諺』、『朴新』：鼻子。
- (146) 『旧老』、『翻老』、『朴諺』、『朴新』：耳朵。
- (161) 『旧老』、『朴諺』：鷄兒。『翻老』：雞兒。

10. 所収語彙の検討

以上の139条151項目において、『語音翻譯』の言語を考える上で問題となるのは、「旧本」系（『旧老』）に存在せず「新本」系以降（『翻老』、『朴諺』、『老新』、『重老』、『朴新』）に存在する項目と、その逆の「旧本」系に存在し「新本」系以降に存在しない項目である。

前者のタイプに属するものには(40)“日頭落了”、(42)“天亮了”、(50)“涼快”、(141)“身子”、(153)“牙齒”等があり、『旧老』ではそれぞれに相当する語彙・表現として、(40)“日頭落也”、(42)“大(天/待?)明也”、(50)“清涼”、(141)“身己”、(153)“牙根底”が用いられている。

このうち、(40)と(42)はいずれも文末助詞の“也”と“了”に関わるものであるが、『翻老』における使用状況は一定していない。『旧老』では“日頭落也”が2例見られるが(いずれも已然の文脈)、『翻老』では1例を“日頭落了”に改訂し、もう1例は“日頭落也”のままである(『老新』では“日也落了”、『重老』では削除)。また、『旧老』では(42)に似た表現として“待明去也”、“天道待明去也”、“恰明也”等が見られるが(“大明也”も含めいずれも将然の文脈)、

『翻老』ではそれぞれ“待天明了也”、“天道待明也”、“恰明也”であり（『老新』・『重老』では“不久東開了”、“天待要明了”、“只怕天就明了”）、“也/了/了也”の使用に揺れがある。拙稿（2002）で述べたように、『旧老』において現代語の“了₂”に相当する文末助詞は已然・将然の場合とも“也”であり、『翻老』では已然の場合に“了”、将然の場合に“也”を用いる傾向が強いと考えられるが（『老新』・『重老』ではいずれの場合も“了”に合流）、『語音翻譯』が会話篇・語彙篇とも一貫して“了”を使用し、“也”が1例も見られないことは、本書が「新本」系以降の語彙との共通性が高いことを物語っている。なお、(141)でも『旧老』における“身己”2例のうち、『翻老』では1例を“身子”に改訂するものの1例は“身己”のままであるが、『老新』・『重老』では残った“身己”も姿を消し、新たに“身子”を付加した例が2例見られるから、同様の傾向を持つと言える。

後者のタイプに属する唯一の例は(75a)の“無了”であり、『翻老』以降ではこれを削除するほか、『朴諺』における相当表現として“沒了”(3例)が見られる。『旧老』での使用例は“無了字兒”であるから構文は異なるが、会話篇の(16)“無甚麼好下飯”と同様、『語音翻譯』では“沒”を用いず“無”を用いていることが注目される。いま、「旧本」系・「新本」系の三本における“無”と“沒”の用例数を示すと以下ようになる（『朴諺』の“無”には文語的な表現も含み、“沒”には『翻譯朴通事』上巻の“無”を改訂した4例を含む）：

	旧本系	新本系	
	旧老	翻老	朴諺
無	28	5	48
沒	31	44	48
沒有	0	4	2

上表によると、『旧老』と『朴諺』では“無”と“沒”の数がほぼ拮抗しているものの、『翻老』では“沒”の例が大多数を占め“無”の例は極めて少ない。『翻譯朴通事』中・下巻の状況を知り得ない以上即断はできないが、この結果から同じく「新本」系に属する『翻老』と『朴諺』の中にも言語的な差異が存在することが見て取れ、『語音翻譯』が存在の否定に“無”を用いるのもさほど不自然ではないと考えられる。

その他に注意すべき点として、大塚（1990）にも言及されている名詞接尾辞“子”と“兒”の問題がある。『語音翻譯』では、“子”を用いるものが(119)“席子”、(124)“椀子”、(128)“櫛子”、(129)“刀子”、(137)“車子”、(138)“卓子”、(141)“身子”の7例、“兒”を用いるものが(130)“鍋兒”、(135)“袴

兒”、(135) “裙兒” の 3 例である。このうち、改訂によって消失もしくは出現した語彙の以前・以後の形を記せば以下の通りである：

- (124a) 椀子 『老新』、『重老』：椀盞。
- (130) 鍋兒 『老新』、『重老』：(削除)。
- (134) 袴兒 『老新』、『重老』：袴子。『朴新』：(削除)。
- (138) 卓子 『旧老』、『翻老』：卓兒。

上の例に限らず、大まかに言って『老乞大』・『朴通事』諸本では改訂を経るに従って“兒”が減少し“子”が増加する傾向にある。いま、『語音翻譯』における“～子”及び“～兒”の使用と一致する各版本の用例数をまとめると以下の通り：

	旧本系	新本系		清代改訂本系		
	旧老	翻老	朴諺	老新	重老	朴新
“～子” (7)	4	5	6	5	5	6
“～兒” (3)	2	2	2	0	0	1
計 (10)	6	7	8	5	5	7

ごくわずかな差ではあるが、「新本」系との一致率が最も高いことはこれまでの予想と矛盾しないものである。

11. おわりに

以上に述べてきたところを総合すれば、『語音翻譯』の中国語は、会話篇・語彙篇を通じて、『老乞大』・『朴通事』現存諸本の中では「新本」系の版本に最も近いと言える。これは前々稿に引いた大塚（1990）の推定を支持するものであり、『語音翻譯』原文書の成立（1501年）が『老朴』の第一次改訂（1480-1483年）の直後であることから考えても自然な結果である。

他方、『老朴』現存諸本のいずれを取っても『語音翻譯』に一致する語彙・文法項目が多いことは注意されるべきである。これは朝鮮半島において受容された口語としての中国語がかなり均質なものであったことを意味し、いわば閉じた体系の中で中国語が使用され続けてきたことを物語るものであろう。

<参考文献>

- 大塚秀明 1990 「『海東諸国紀』の「語音翻譯」について」、『言語文化論集』32：49-62。
- 竹越孝 2002 「从《老乞大》的修订来看句尾助词“了”的形成过程」、『中国語学』249：42-60。